

平成30年度 第1回瑞穂区在宅医療・介護連携研修会 アンケート結果

平成 30年 6月 14日(木)

◎参加者:112名 (うち、アンケート回答者81名 [回収率:72%])

[参加者内訳]

座長、講師、シンポジスト 計7名 (参加者に含まず)

病院・診療所 (医師8名、看護師6名、MSW1名、理学療法士3名、病院診療連携主査1名、クリニック事務1名)

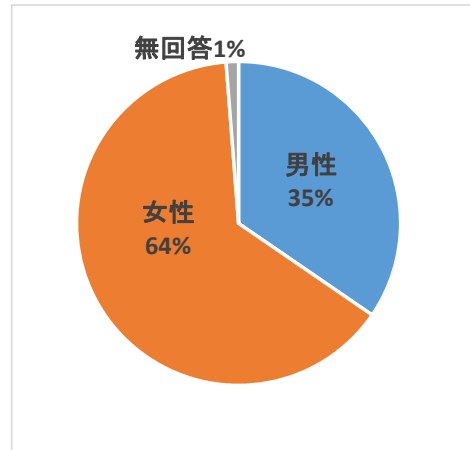
歯科診療所 (歯科医1名、歯科衛生士2名) 調剤薬局等 (薬剤師2名、薬学学生2名)、訪問看護 (看護師10名、理学療法士2名)

居宅介護支援 (介護支援専門員45名)、通所事業所 (3名)、訪問介護事業所 (1名)、薬品会社 (5名)

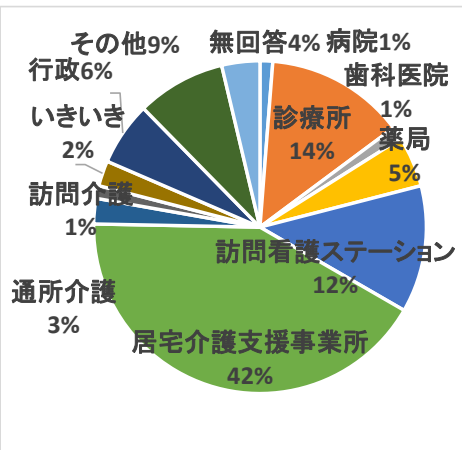
福祉用具 (1名)、鍼灸マッサージ (1名)、入所・入居施設職員 (3名)

行政等 (瑞穂区役所4名、瑞穂保健センター3名、いきいき支援センター7名)

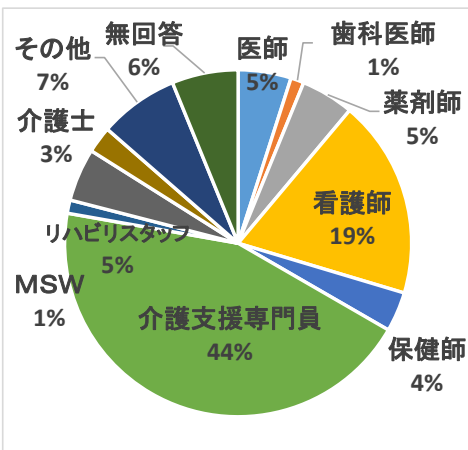
<性別>



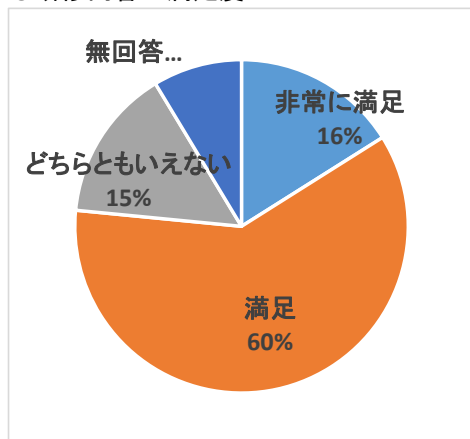
<所属>



<職種>



●研修内容の満足度



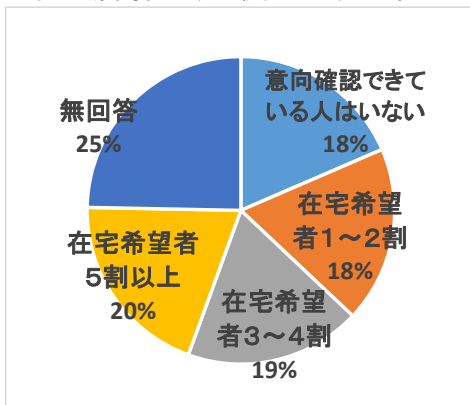
[非常に満足・満足]

- (医師) ・面白かったが、もう少し具体的に踏み込んだ話も聞きたかった。
- (保健師) ・講演が2題あったが時間が短く残念だった。もう少しじっくり聞きたかった。
- (ケアマネ) ・地域の現状が良くわかり、連携の必要を強く感じた。
・2025年、独居の増加について改めてケアプランに位置付けていく。
・色々な立場での在宅支援・看護の連携状況を知る事ができた。
- (リハスタッフ) ・改定直後は多忙であった為、わかり易く内容を伝えて頂け良かった。
・普段考える事があまり無かった点について多くの話が聞けよかった。
- (その他) ・課題への答えに近づいた。
・短い時間に内容が盛り沢山すぎ、もう少し絞ってもいいのではと感じた。

[無回答記述]

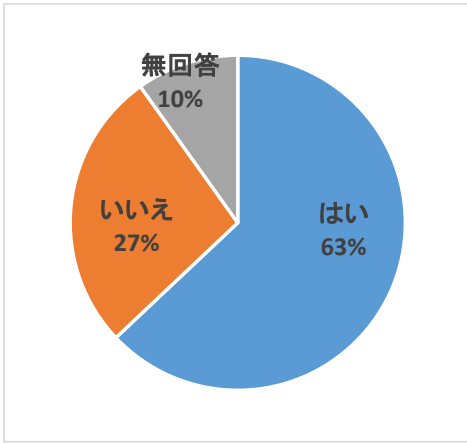
- (看護師) ・議題が多く一講演の時間が少ない、もう少しゆっくり説明が聞きたかった。
- (リハスタッフ) ・ヘルパー、リハ、栄養に関する観点からの話も聞きたかった。
- (その他) ・内容は良いが時間が足りない、もう少し詳細を聞きたかった。

●担当療養者のうち最後まで在宅希望している割合



- (ケアマネ) ・本人は在宅希望、家族は「家では・・・」という療養者が多い。

●2025年多死社会に対する意識



[はい]

(看護師)

- ・看取りが増えてきている。
- ・死生観の再構築。
- ・心の準備はできているが、体制が間に合っていないように感じている。

(ケアマネ)

- ・様々な研修を通して少なからず、そのような意識は持っていると思う。
- ・自宅で見られる体制づくりを定着させていく必要がある。
(1人暮らしの人が、在宅へ戻れるところを作る？可能か？)

(その他)

- ・後期高齢者の人口上昇。
- ・これだけ高齢者が増え、有名人の訃報も日常的になっているから。

[いいえ]

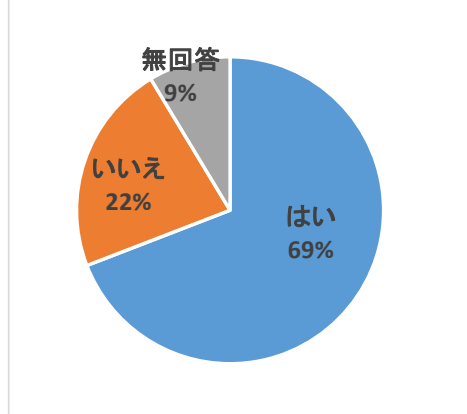
(看護師)

- ・今日、持つことができた。
- ・今回の話を聞くまで、あまり考えたことがなかった。
- ・訪問事業に入ったばかりで、わからないことが多いのが現状。
- ・寿命が延び、医療の更なる発展とAIなどの飛躍的な導入で生活し易くなるため、まだ2025年では多死社会までいかない2040年ぐらいからではないかと思う。
- ・まだ、理解しきれしていない。

(リハスタッフ)

(その他)

●2025年にむけた医療・介護連携の意識



[はい]

(看護師)

- ・在宅看護師にも、新卒がやっつけける教育プログラム作り。
- ・今日の講演で多職種で連携し意見のすり合わせをする事の大切さを学ぶ事ができたので、今後に向けて意識を高めていきたいと思う。
- ・医療+介護+家族+地域
- ・看護の連携については、課題を感じている。
スピード・内容・規模(どこまで、誰まで共有し連携するか。)

(ケアマネ)

- ・もっと実のある連携を進めて行きたいと思う。
- ・ケアマネも増えそうだが医療知識をもち積極的に関わってほしい。
- ・在宅で終末期を過ごす方が増えると考えたら、とても重要な事と感じる。

(リハスタッフ)

- ・療養者の生活をベースとして介入していけるよう心がけている。

(その他)

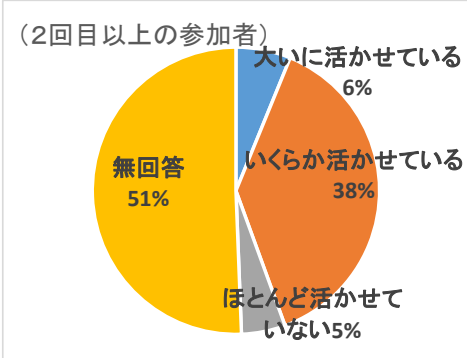
- ・ただ、手段が少なく、文書での連携が多い。
- ・こうした研修に参加する積極的な気持ちがあるから。
- ・方針の理解ができた

[無回答記述]

(リハスタッフ)

- ・セラピストとしてアセスメントを行った上で、介護職員だけでなく看護職員に伝えることでセラピストが少ない施設でもリハビリテーションを提供できるのではないかと思う。

●研修の学びを実際に活かしているか



[いくらか活かしている]

(看護師)

- ・全スタッフへ共有し周りのステーションの状況、介護界の状況もよく解る。
- ・療養者やご家族にも、断片的にお伝えしている。
- ・医師や地域の事業所の方の顔が見え勉強になった。
- ・退院カンファレンスには、ほぼ全サービスの担当が参加されるので調整し易い。
- ・訪問看護の活用方法、どういった連携・情報共有が必要か理解できた。

(ケアマネ)

<研修会全般に対するご意見>

(医師)

- ・ためになった。

(薬剤師)

- ・会開催について、薬局にも声をかけていただきたい。

(看護師)

- ・日々変わるので、アンテナをはって新しい知識、法律等を学んでいかないといけないと思った。

(ケアマネ)

- ・訪問リハを活用しているお宅に、訪看が入ることについて、重度化していない利用者には理解が得られにくい。

(リハスタッフ)

- ・看取りに関してセラピストも携わることができるのか、携わるとしたらどのような関りができるのか興味がある。
- ・改めて2025年の多死社会、看取りについて考える機会となり、連携の大切さを感じる機会となり参加してよかった。
- ・休日を使い、もっと地域の課題など深い所や実務につながる意見交換ができる機会あるとよいと思う。

(その他)

- ・医療での訪問看護と介護保険での訪問看護について、その選択の仕方を明確に知りたい。

●事業所内での情報伝達共有

